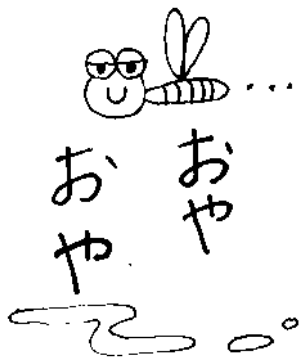


亀の歩みのような

そらのくみ　　

一才を過ぎても意味のある言葉が出ず、一才半健診で指摘され、市がやっている、発達が心配な子の教室へ行くようになりました。それでもやっと二才半で単語が出はじめたくらいでした。こちらの言っている事は理解しているようでしたので、何で言葉が出ないのかなぁと、色々声かけを工夫したりしていましたが、なかなかの頑固具合でした。

そうこうしている内に幼稚園を決めなければいけない時期になり当時引越先がぎりぎりまで決まらず、私自身がむらさき幼稚園だったので、すぐに申し込みぎりぎりで、単語しか出なく、身辺自立もあまりできていなかったのですがそれでも受け入れてもらい、感謝しかなかったです。光信先生に面接してもらったのですが、「これは手がかかるなぁ」と言われました（笑）。

入園の日を迎えるまで、少しですが、単語も増えたような気がしましたが、入園式の日は沢山の大人と子ども達に圧倒されたのか、言葉はほとんど出ず、年少さんの部屋にあった、ケーキのぬいぐるみを手に持って離す事ができず、入園式も先生に「いいよ」と言ってもらいずっと握りしめていました。私もこの先が不安でいっぱいな入園式でした。次の日からは、私の仕事のためほぼ毎日17時までのプレイホームが始まりました。有り難い事に、行き渋りなどなく、話してはくれませんが楽しそうな感じは伝わってきてました。最初の頃は「どうして　ちゃんしゃべらないの？」とか「何でお話できないの？」と皆不思議そうに聞いてきてたのですが、しばらく経つと、お話ができない事をわかって、手助けしてくれたり、代弁してくれたり、子どもってすごいなぁと感心していました。

そして、あっという間に夏休みが過ぎ、ちょっとずつですが言葉が出てきて、単語から二語文、三語文と出てきて、コミュニケーションが取れるようになってきました。オムツもまだ外れておらず、周りと比べると本当に亀の歩みのような成長でしたが、とても安心しました。むらさき幼稚園は、オムツも焦らず対応してくれ、ゆっくりな　にとって、安心できて甘えられる場所になっていったのだと思います。プレイホームでもお姉さん、お兄さんに囲まれて、一緒に遊んでもらったり、時には叱られている時もありましたが、それでもプレイホームが大好きでここでの時間も成長につながったように感じます。今でも大好きなようです。

発達の遅れを指摘され、年少の秋頃から療育にも通っていますが、ゆっくりな成長を焦らす事もなく見守ってくれるむらさきの先生方のおかげで、私の気持ちもまあいいかと思えるようになっていき気楽に過ごせたように思えます。年中さんになると先生の名前や、お友達の名前が少しずつですが出てきました。年少の頃は一人遊びがほとんどで、誰かの名前が出る事はなく、とても嬉しかったです。年中の夏休み明けぐらいから、おどろくほどに言葉が出てきて、先生やお母さん方に「すごいお喋りになったねー！」と言われるようになりました。今では口に出して恥ずかしいと言えるようになりましたが、恥ずかしい思いが強くなかなか言葉が出なかったのも一つあるのかなと思います。

年中さんの三学期になると更に言葉が増え、言い訳や文句なども言えるようになり、この三学期の成長が一番大きかったような気がしました。年長さんになり、自分が一番上になった自覚が出てきたのか、年少の頃には考えられないような言動と行動が見られ、行事に参加する姿は信じられない光景でした。最初は心配でいっぱいでしたが、集団の中で成長していく姿を見て、子どもの成長は一人一人ちがっていて大丈夫なんだと思わせてくれたむらさきでの姿でした。

